

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記③

国立市立国立第七小学校

平成27年6月17日 NO.32 (232)



カエデの種子とオトシブミ



カイコのまゆ



タマムシ

オー君 「あれあれ？いろいろな写真がいっぱいありますね。」

花ちゃん 「これらは、みんな校長先生に見せてきてくれたものだそうです。」

オー君 「左は、『カエデの種子』ですね。オトシブミもありますね。」

モンタ博士 「これはね、3年生のYさんが見つけたものだよ。」

花ちゃん 「まんなか、3年生が育てているカイコがまゆになったそうで、Mさんたちが見せにきてくれたそうです。」

オー君 「右は、1年生のIさんとKくんが校庭でつかまえたらしいですね。」

モンタ博士 「タマムシは、国立でもたくさん見ることができる昆虫だね。学校の近くのあちこちによくいるね。とてもきれいで、歩く宝石だね。タマムシについては、国立てくてくのバックナンバーにあるから参考にしてください（平成25年6月28日 NO26）。」



花ちゃん 「あれあれ？女おんなの子こが紙かみを持もっていますね。」

オー君 「何かなに長いながもののようですね。」

モンタ博士 「これはね、3年生のOさんが見みつけてきた『へびのぬけがら』なんだよ。」

花ちゃん 「ものすごくなが長いようですね。」

オー君 「何なんというへびのぬけがらなのですか。このぬけがらをどうしたのですか。」

モンタ博士 「せっかく持もって来きてくれたから、標本ひょうほんにしたんだよ。こうしておけば、いつでもだれでも見みることができるでしょ。標本ひょうほんには、いつ・だれが・どこで・何なにをというものをきちんと記録きろくすることが大切たいせつなんだよ。」

花ちゃん 「右側みぎがわに何かなに書かいてありますね。」

オー君 「1m92cmとはとても大おおきいアオダイショウですね。」

モンタ博士 「そうだね。胴どうまわりもそうとうあつて、太ふとかったらうね。とても見事みごとなぬけがらだね。頭あたまから

しっぽまでウロコもくっきりとしているんだ。口くちから脱皮だっぴするらしいけど、目玉めだまや口くちもカッと開ひらいていて、モンタ博士もびっくりだね。」

花ちゃん 「ところで、へびってどうやってからをぬぐのですか。」

モンタ博士 「ある人ひとに教おしえてもらったけど、頭あたまから脱皮だっぴする時は、くつ下ときをぬぐようにびっくりかえすそうだよ。」

オー君 「へえー。それじゃ、びっくりかえしてぬぐということは、見みえているのは、皮かわの内側うちがわということですね。」

花ちゃん 「なーるほど。それから、モンタ博士！へびのぬけがらを持もっていると幸運こううんがあるそうですね。」

オー君 「さいふいに入れておくと大金持おおがねもちになれるそうですね。」

モンタ博士 「本当ほんとうかどうかはわからないね。このぬけがらは大おおきいから、お財布さいふには入はいらないね。それで、モンタ博士ラボラトリーに展示てんじすることにしたよ。そうすれば、国立七小くにたちななしょうの子供達こどもたちにとっていいことがあるかもしれないもんね。」

名 <small>な</small> 前 <small>まえ</small>	アオダイショウ
日 <small>にち</small> 時 <small>じ</small>	平成27年 春 <small>はる</small>
場 <small>ば</small> 所 <small>しょ</small>	谷保天満宮 <small>やほてんまんぐう</small> の近く <small>ちか</small>
長 <small>なが</small> さ	1m92cm
採集者 <small>さいしゅうしゃ</small>	3年生 小野みもり